

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

皆で、手を繋いで

長岡市立寺泊中学校

二年 五十嵐 千聖

誰もが安心安全に暮らすことができる『理想の街』。それは、どんなものだろうか。

「税金って、面倒だよなあ」

そんなことを考えたことが、誰だっと思う。私もその例外ではない。買いたい物の定価に、その定価の十パーセントを足す。暗算が苦手な私にとって、その作業は煩わしいものだった。

私は、レジで戸惑うことが多々ある。定価に消費税を足すことで、値段がキリの悪い数字になること。それが主な原因だ。

消費税の計算で小さなミスをした時、想定していなかった分の小銭を財布から取り出すことになる。そこで時間を使ってしまうのだ。

店員さんや後ろに待っている人の時間を奪ってしまった、と思うと少し憂鬱な気持ちになる。だから私は、レジが少し苦手だ。

ある日、親とスーパーで買い物をした。すると、レジの列に並んでいる時に、こんなやり取りを目にした。

レジで会計をしているのは七十代くらいのおばあさん。小銭を出すのに戸惑っているようだった。

「ごめんなさい、ゆっくりで」

小さくそんなことを言いながら、慣れない手つきで財布を漁るお

ばあさんに、店員さんは言った。

「いいんですよ、ゆっくりで。私だって、よくありますし」

店員さんにはっこりと笑った。自分に向けられた言葉ではないのに、その言葉は私の心を動かした。

その時に、気付いた。皆、一緒なんだな、と。

私も、おばあさんも、店員さんも、お金を使って生きている。ものが必要だから、私はお金を払う。そのお金を得るために、店員さんは働く。

働いて、得て、払って、得る。生きている限り、皆そうだ。皆、一緒。

お金は、皆が生きるためにある。社会も、皆が生きるためにある。それを支えるのが、税金だ。

その日から、買い物をしている時、両手に誰かの温もりを感じるようになった。皆と手を繋いでいるような感覚だ。

（私がお金を払うことで幸せが増えるんだ）

レジが、好きになった瞬間だ。

誰もが安心安全に暮らすことができる『理想の街』それはどんなものだろうか。

答えは、あなたの、私の、両手にある。

皆、一緒。そんな街を支える税金を、笑顔で払い続けること。それが、『理想の街』づくりだ。